

新月伐採木

—新月の強さ—

64期生

I 研究動機

年中木が伐採されている今、ある時期だけ伐採されている木があると聞いた。「ある時期」とは11月、12月、年を越えた1月の新月の日の前日からさかのぼる1週間。その木は新月の木と呼ばれ、他の木と比べて腐りにくく割れにくい。なぜ新月なのか、またその期間だけ切るのだから地球に優しいのではないかと調べてみることにした。

II 研究方法

- ・文献で月について基礎知識を得る
- ・新月の木に詳しい人に取材する
- ・新月の木を実際に伐採している現場に行く
- ・実験する（大根、新月伐採木、満月伐採木）

III 研究内容

1. 新月の木とは？

- ① 11、12、1月の下弦から新月に至る1週間ほどの期間に伐採する



- ② 伐採に際しては谷側へ倒す



- ③ 長期葉枯らしを十分にする

⇒葉枯らしとは葉っぱをつけたまま木材を林地に放置し、少しずつ木材を乾燥させることである

- ④ 製材後は天然乾燥を行う

以上の4つの条件をクリアした木材が新月の木とよばれる。
この木は普通の木と違う大きな特徴がある。

1. 燃えにくい
2. カビに強い
3. 腐食に強い
4. 害虫に強い
5. 割れや狂いが生じにくい



2. なぜ新月の日に伐採するのか？「月」の魔力

A 満月の影響力

満月は月の引力が最も強くなる。満月の日に人の出生率や出血量が増えるのは、人間の血液や体液をも引っ張り神経が活発化するからではないか、と言われている。栄養物や薬物、添加物など体がなんでも吸収しやすくなる。したがって満月の日は最も太りやすい日と言われている。

また満月の日は、ホルモンバランスが崩れやすくなるためか衝動的、攻撃的な感情が高まるようだ。この日は突発的な暴行、傷害、殺人事件、そして自殺などが増すことで知られている。

B 新月の影響力

不思議なことに新月も満月と同じように引力が強いのだが、その作用は全く逆になる。

例えば、人の出産率や出血量が最低になる。また、新月のときは「放出」する作用が最も強くなると言われており、運動すると汗がたくさん出る。

そしてこの日は虫や微生物もあまり活動しないため、種が食べられにくく植ええには最適だと言われている。

C なぜ新月なのだろう？

増田さんに取材した。

新月伐採期間は先のBでも述べたようになんでも放出する時期である。例えば水。水がたくさん含まれているとその分、腐りやすくなる。でも新月の時は含まれている量が少ない時期だ。

また、11、12、1月に伐採するのも理由がある。この期間は多くの動物が冬眠するように木もあまり活動しなくなる。すると水分量や栄養分などが少なくなっており、木が引き締まっていて切ってから腐りにくくなる。

栄養分と述べたがその正体はデンプンである。写真を見てもらうとわかると思うが、上の満月伐採木と新月伐採木では伐採したときのデンプンの量はあまり変わらない。けれども8/10の写真を見てもらうと誰でも一瞬でわかるくらいデンプンの量にかなり差がある。満月伐採木も少なくなっているが新月伐採木はほとんどと

言っていないほどデンプンがない。ちなみにもう気づいていると思うが、この青紫色の部分にヨウ素液に反応したところである。デンプンがあると木の腐りの原因になるが、このように新月伐採木のデンプンはフェノールという物質に変わる。フェノールは木を腐らせたりせず反対に木を腐食から守るものである。これが今、新月伐採木の秘密の一番有力な仮説とされている。



3. 色々なところで使われている新月の木

・法隆寺 五重の塔

世界最古の木造建築として有名な法隆寺。五重の塔の心柱には594年に伐採された樹齢2000年のヒノキの巨木を使用しているそうだ。法隆寺は造られてから約1300年経っているので、このヒノキは3300年経っていることになる。これは驚異的のことではないか。またここに使われている木はただの新月の木ではなく闇夜に切る「闇切り」した木を使って建築されている。

・ストラディバリウス

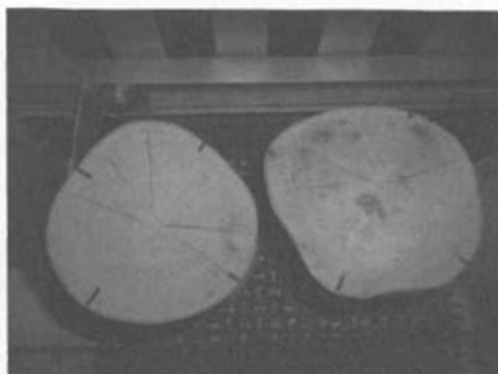
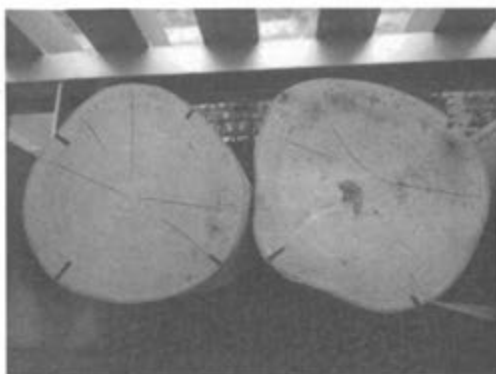
ストラディバリウスとは、弦楽器の天才的製作者アントニオ・ストラディバリが作ったバイオリンの最高峰である。比類のない音色は最新技術で似たような材料を使っても再現できない。そのバイオリンに使われていた木材が新月の木とされており、木目が均一に詰まっている。ちなみに現存する真作で最も評価の高い18世紀初頭の作品はオークションにかけられ約12億円で落札！

この他にも色々なところで新月の木は使用されている。特に、外国が多い。

4. 実験

- ① 2011.5.3の新月伐採木と2011.5.16の満月伐採木を使ってカビ、害虫、ヒビ、割れ、狂い、腐食について調べてみた。屋外で2本の木を隣に並べ、雨にもあたるようにした。実験では常に右を新月伐採木とした。

実験期間 7/1～8/31



結果は失敗…

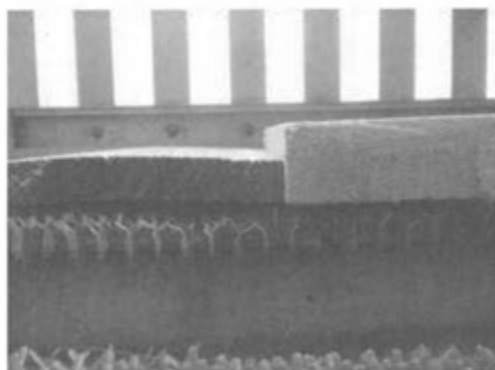
本来なら新月の木の方が満月の木よりも良い状態のはず。しかし今回の実験で新月の木は満月の木より割れやカビが多く、さらに中心部分は腐っていた。

なぜ、失敗してしまったのか増田さんに尋ねてみた。すると「伐採する時期が失敗」と教えてくれた。「特に5月は水気を多く含んでいるので、いくら新月の木でも割れやカビは生じてくる。それに、この実験に用いた2本の木を比べるとはじめてから満月の木のほうが良い木だったので、それも原因のひとつだと思う。あと、葉枯らししてないでしょ？」

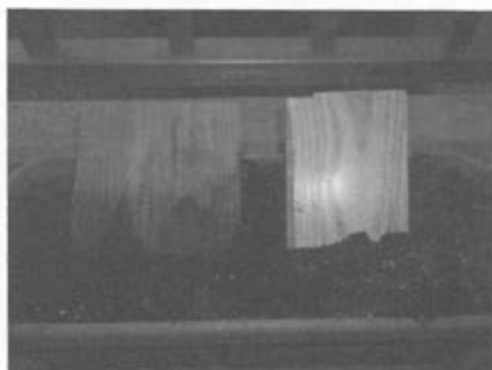
確かに私は葉枯らしなんて重要ではないと思っていたのでやっていなかった。けれどもこれは葉から水分が抜けると同時に、腐れや虫食いの原因となるデンプン質が消費される大切な行程のひとつだったのだ。

ということで、新月の木と満月の木をもらってもういちど同じ実験をしてみることにした。

- ① 実験①をしたところ(A)と、日陰でジメジメしている土に半分さした(B)。
実験期間 8/12～8/31



(A)



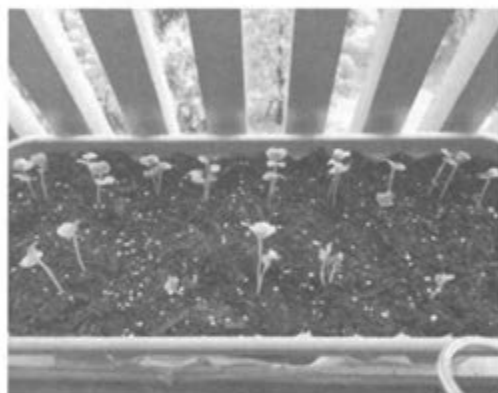
(B)

結果

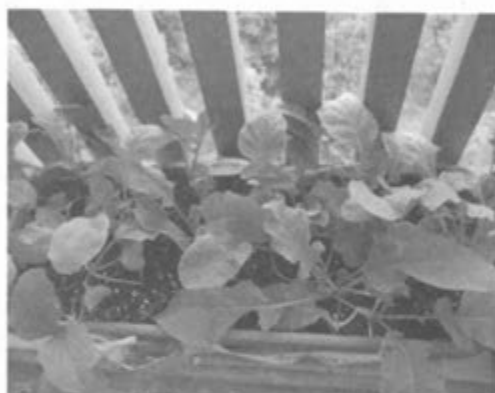
Aは満月の木が1日で曲がったのに対し、新月の木は変化が見られなかった。Bでも、満月の木は1日で曲がったうえに土にふれていた部分が黒くなっていたのに対し新月の木に変化は見られなかった。

だからといって、成功とは言いきれないと思う。なぜなら、実験に使用した木の大きさ(縦・横・高さ)が違うからだ。急いでいたとはいえ、これも失敗だったと思う。

- ② 満月に植えたものと新月に植えたもの、どちらがよく成長するのかを確かめるために20日大根と30日大根で実験した。



4日目



30日目

観察日記

日数	新月 7/1～7/31	満月 7/15～8/14
2		芽がいくつか出る
4	芽がいくつか出る	
6		全て芽が出る
8	全て芽が出る	
10	まびいた	まびいた
12		ギザギザ葉っぱ出現
14	ギザギザ葉っぱ出現	
16		
18		
20		
22		虫食い発生
24	あまり成長しなくなる	あまり成長しなくなる
26		
28		
30	大根ナシ	大根ナシ

毎日長さ(高さ)や大きさを見ていくと満月のほうが新月より平均で1cm高かった。発芽後はいつも満月のほうがワントンボ早く成長していた。しかし満月は虫食いが多く、元気のない葉っぱも多かった。その点では、新月の葉の方がぎゅっと引き締まっており虫に食べられることはなかった。

新月米というのがありそれは収穫後、なにもしなくても虫に食われないというものであるが今回の実験で新月だけが虫に食べられなかったのは栄養が満月の葉より劣っていたからではなく新月米や新月の木と同じようなものだからかなあと考えた。

また、大根ができれば味比べをしてみたかったが大根はひとつもできなかった。この原因はひとつのプランターに大根の種を詰め込みすぎたからだと考えられる。ちゃんと、大根と大根の間をあけておくべきだった。葉っぱの違いがでて、考察することはできたがやはりそこが一番残念なところだった。

IV まとめ

なぜ新月なのか、今のところまだはっきりとしていない。けれども新月の木というものはとても強い素晴らしい木だというのは研究を通してよくわかった。

冒頭でも述べたが今、日本では大量の木が年中伐採されている。このままではどうなるか。言うまでもなく森林は減っていき、森林率上位の日本の順位はあつという間に下降していくだろう。いや、順位よりも森林が減ると今度は海に影響してくる。最近では猟師さんたちがいい魚を獲るために山に植林しに行っていると聞く。

新月の木は伐採する期間が限られているし何百年でも使えるので木の需要はそうそう多くはならない。だから新月伐採木は本当にエコなのだが現在新月伐採をしているところは7都道府県である。少なすぎる。これからのためにも新月伐採するところをひとつでも多くすることが大切だと思う。

V 感想

今回の実験は全体的にうまくいかなかった。夏休み前からやっていたのだが、生物の実験は時間がかかり失敗したら取り返しのつかないことになるので本当に大変だったが失敗から学んだこともたくさんあった。次回の実験の課題は「条件をそろえる」ことだ。

VI 協力・参考文献

(株)ルプ 社長	平尾 恭子
(株)イノウエ建築工房 社長 一級建築士	井上 能信
NPO新月の木国際協会 会長	増田 正雄
河内長野木材加工所 所長	岡田 哲也

月の魔力 A・L・リーバー	東京書籍	2006.3.27
もしも月がなかったら ニール・F・カミンズ	東京書籍	2008.2.12
月の誘惑 志賀 勝	(株)はまの出版	1998.2.26
空と月と暦 米山 忠興	丸善株式会社	2006.9.30